

## 第21回最上小国川流域環境保全協議会の概要について

標記の協議会について下記のとおりWEB会議、文書会議を併用して開催しました。

「最上小国川流水型ダムの状況」「前回の協議会における指導事項と対応」「令和4年度環境影響調査の報告」「ダム供用後モニタリング結果の総括」および「今後の環境調査」について説明し、各委員から活発な御意見をいただきました。その概要は下記のとおりです。

### 記

- 1 日時 令和5年3月8日（水） 13:30～15:00
- 2 場所 最上総合支庁
- 3 出席者 13名（WEB会議6名、文書会議7名）

WEB 会議：原慶明委員長、高橋光明委員（信夫榮代理）、梅田信委員、本登渉委員（伊佐早皓太代理）、伊藤秀樹委員（大場君博代理）、伊藤和久委員（岸勝志代理）  
書類会議：今井正委員、柳原敦委員、横倉明委員、伊藤一雄委員、笹原啓一委員、高橋治委員、星川基委員

### 4 審議の結果

各委員からの主な御意見（要旨）

- ・原委員長 **【濁度計測】**
  - ・出水状況の整理について、今後は前回までの実際の出水との比較考察を行っていくことも重要である。また、提示データが多く複雑なので、もう少しまとめ方をわかりやすくできるとよい。
  - ・出水によりダム上流の流入口に流木等が流れてきたはずで、それらの堆積の程度やダムへの影響についても報告してほしい。**【魚介類調査】**
  - ・国の調査で行っている環境DNA調査はデータが蓄積されると魚類相の確認に信頼性が出ると思われ、今後の魚介類調査にあたり意識するとよい。
- ・梅田委員 **【濁度計測】**
  - ・とても丁寧な測定器の管理が行われていて、貴重なデータが得られている。
  - ・洪水規模を考えた比較や整理は良い考え方だが、シミュレーションの条件と実際の出水は一致しないことも考えられるため、整理の仕方を精査してほしい。
  - ・経年的な濁りの整理としてダム建設前からの状況についても考察が必要と考えられる。
- ・伊佐早代理 **【魚介類調査】**
  - ・魚介類調査結果を確認し意見はとくになく、調査について継続してほしい。
- ・信夫代理 **【濁度計測】**
  - ・出水により堆積した流木の撤去は立会いを行い、下流へ流出しないよう作業に配慮もいただき良かった。**【魚介類調査】**
  - ・魚介類調査でアユが採捕できなかったのは人の気配に敏感で逃げてしまうため、投網などであれば採捕できると考えられ次年度の調査手法を検討するとよい。**【モニタリング総括】**
  - ・最上小国川流水型ダムの調査状況について全国にも発信していけるとよい。

### 【開催概況】

